

4. 調査結果

(1) 新たな働き方への自らの意欲について

Q1. あなたは以下のような働き方をしてみたいと思いますか。それぞれの選択肢について、あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

1) 単純集計

Q1-1 労働時間の長さや、始業時間・就業時間を自由に決められる（フレックス）

最も割合が高いのは「この働き方をしたい」で 55.6%、次いで「分からない・考えたことがない」が 24.3%、「既にそうしている」が 8.5%であった。

Q1-2 サテライトオフィスや自宅、コワーキングスペースなど、一定の職場以外でも働くことができる（テレワーク）

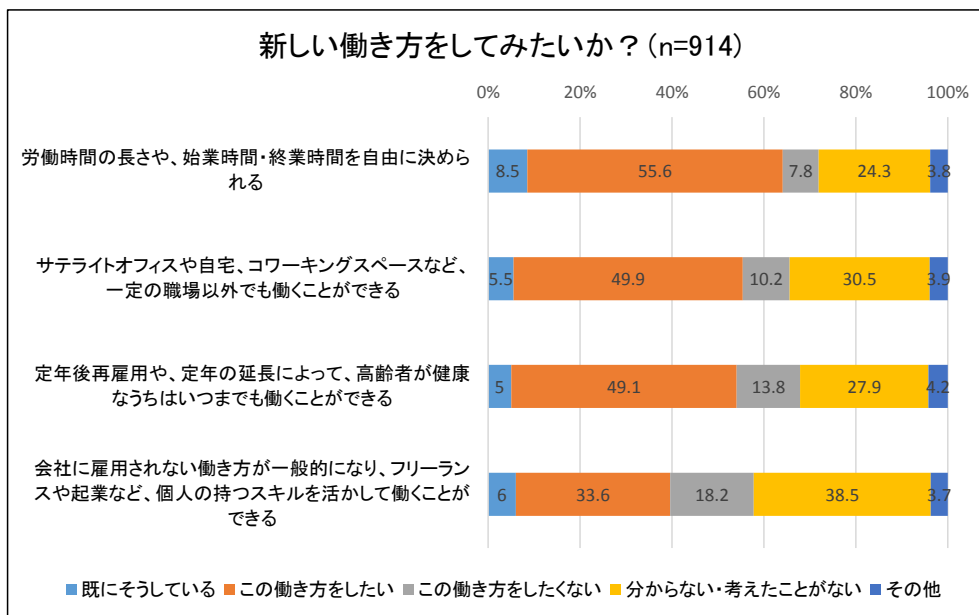
最も割合が高いのは「この働き方をしたい」で 49.9%、次いで「分からない・考えたことがない」が 30.5%、「この働き方をしたくない」が 10.2%であった。

Q1-3 定年後再雇用や、定年の延長によって、高齢者が健康なうちはいつでも働くことができる（高齢者活躍）

最も割合が高いのは「この働き方をしたい」で 49.1%、次いで「分からない・考えたことがない」が 27.9%、「この働き方をしたくない」が 13.8%であった。

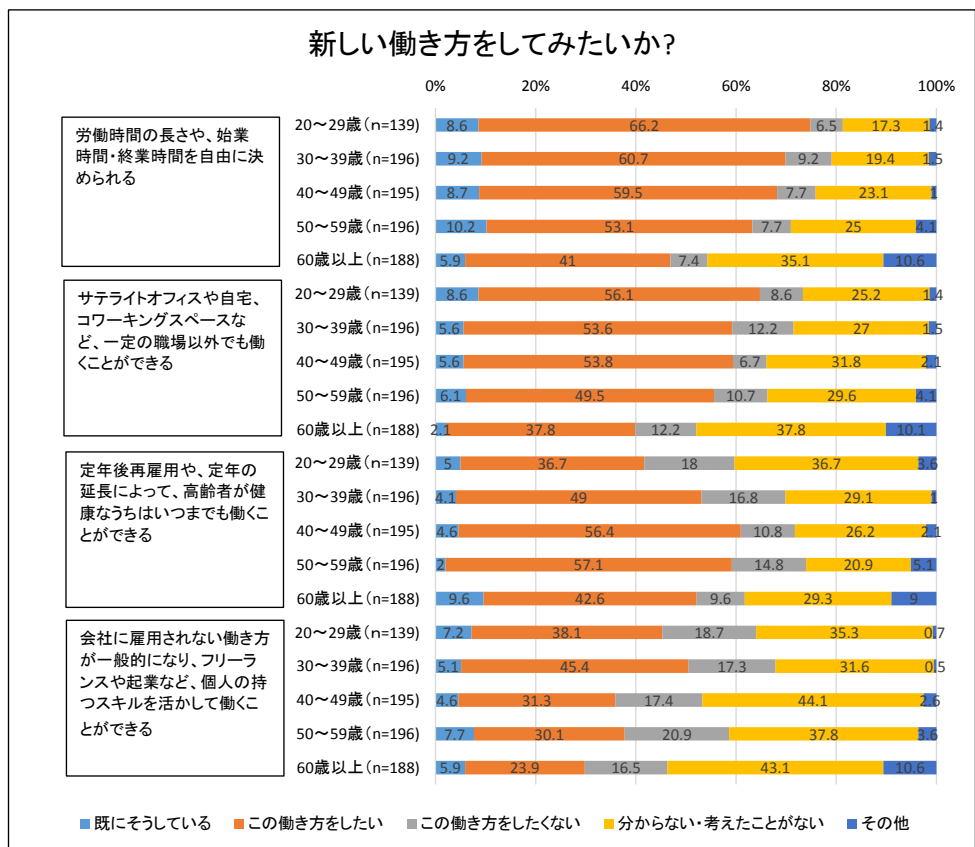
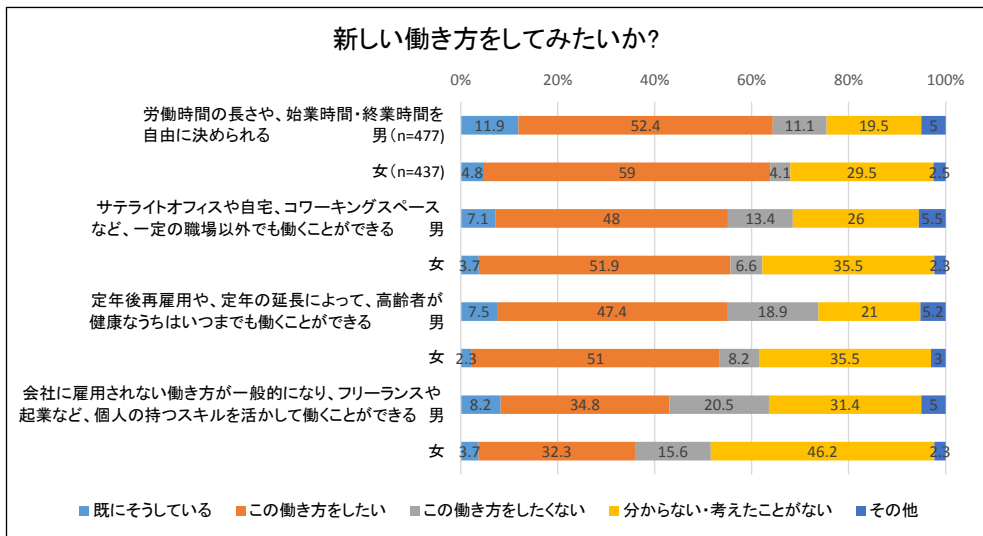
Q1-4 会社に雇用されない働き方が一般的になり、フリーランスや起業など、個人の持つスキルを活かして働くことができる（雇用によらない働き方）

最も割合が高いのは「分からない・考えたことがない」が 38.5%、次いで「この働き方をしたい」が 33.6%、「この働き方をしたくない」が 18.2%であった。

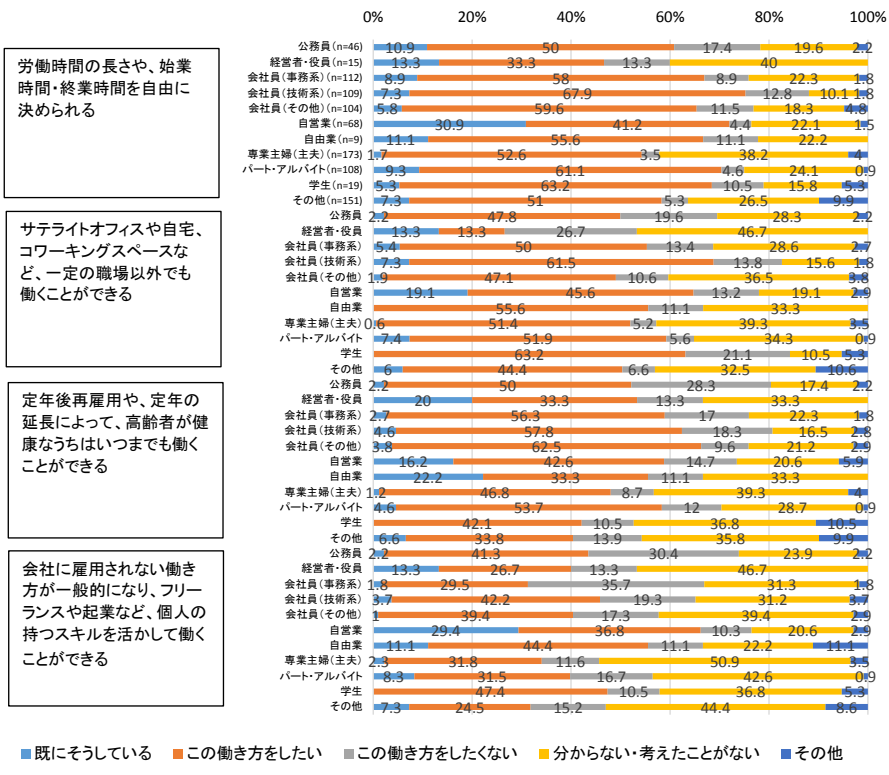


2) クロス集計（男女別・年齢別・職業別・地域別）

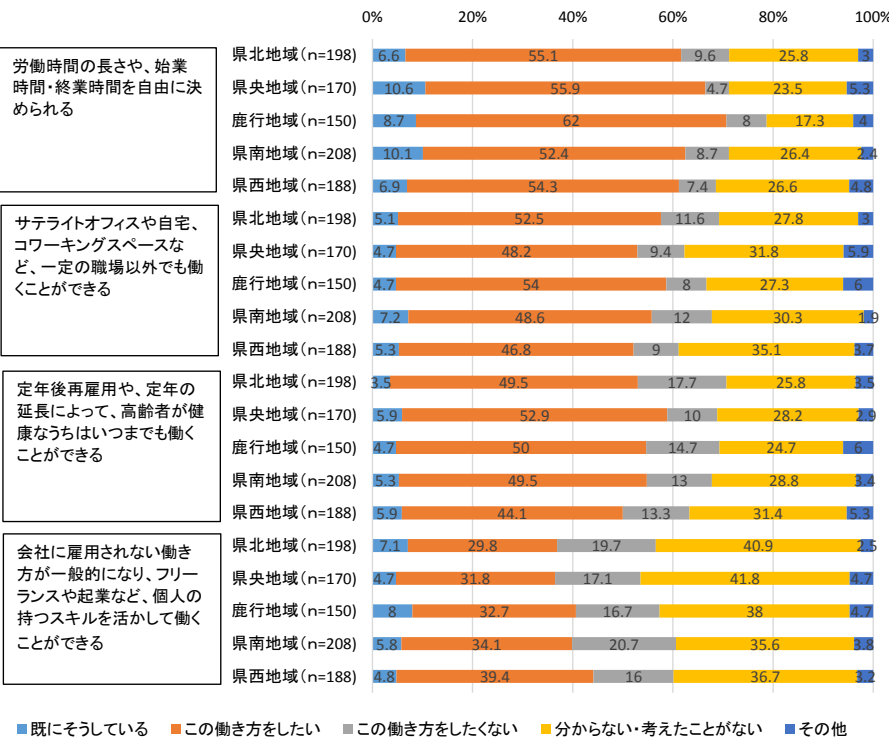
- ①男女別では、男女ともすべての項目で「この働き方をしたい」が「この働き方をしたくない」を大きく上回った。
- ②年齢別では、すべての年代ともすべての項目で「この働き方をしたい」が「この働き方をしたくない」を大きく上回った。
- ③職業別では、経営者・役員が『テレワーク』と『雇用によらない働き方』で「この働き方をしたい」が「この働き方をしたくない」を下回った（ただし、「既にそうしている」「この働き方をしたい」の合計と、「この働き方をしたくない」とを比べると、『テレワーク』はほぼ同じ、『雇用によらない働き方』は「既にそうしている」「この働き方をしたい」の合計が「この働き方をしたくない」を上回った）。それ以外は、すべての職業ともすべての項目で「この働き方をしたい」が「この働き方をしたくない」を上回った。
- ④地域別では、すべての地域ともすべての項目で「この働き方をしたい」が「この働き方をしたくない」を上回った。



新しい働き方をしてみたいか？



新しい働き方をしてみたいか？



(2) 新たな働き方の進展について

Q2. 今後、以下のような働き方改革が進むと思いますか。それぞれの選択肢について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

1) 単純集計

Q2-1 労働時間の長さや、始業時間・就業時間を自由に決められる（フレックス）

最も割合が高いのは「進まないと思う」で46.0%、次いで「進むと思う」が24.8%、「分からない」が18.5%であった。

Q2-2 サテライトオフィスや自宅、コワーキングスペースなど、一定の職場以外でも働くことができる（テレワーク）

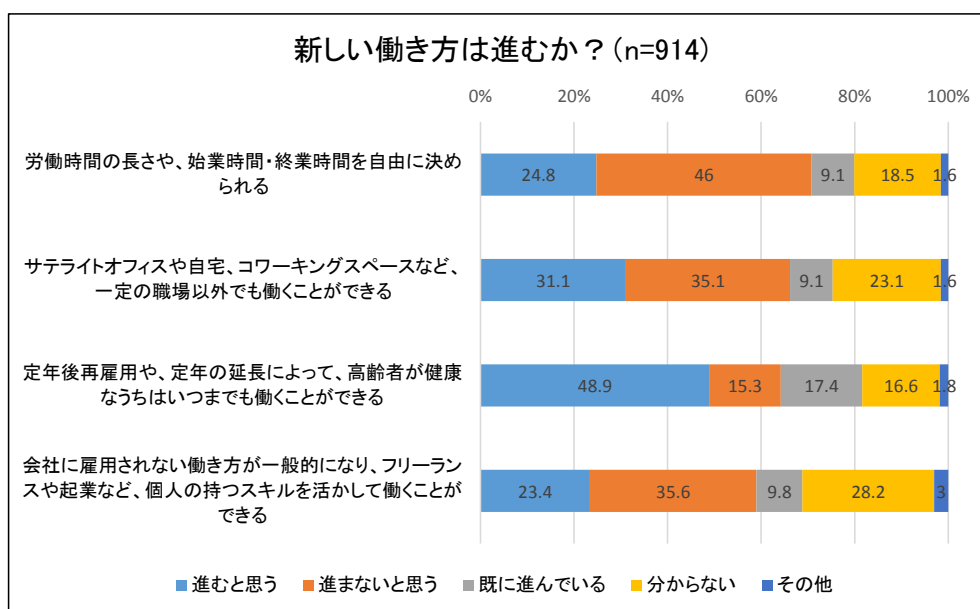
最も割合が高いのは「進まないと思う」で35.1%、次いで「進むと思う」が31.1%、「分からない」が23.1%であった。

Q2-3 定年後再雇用や、定年の延長によって、高齢者が健康なうちはいつでも働くことができる（高齢者活躍）

最も割合が高いのは「進むと思う」で48.9%、次いで「既に進んでいる」が17.4%、「分からない」が16.6%であった。

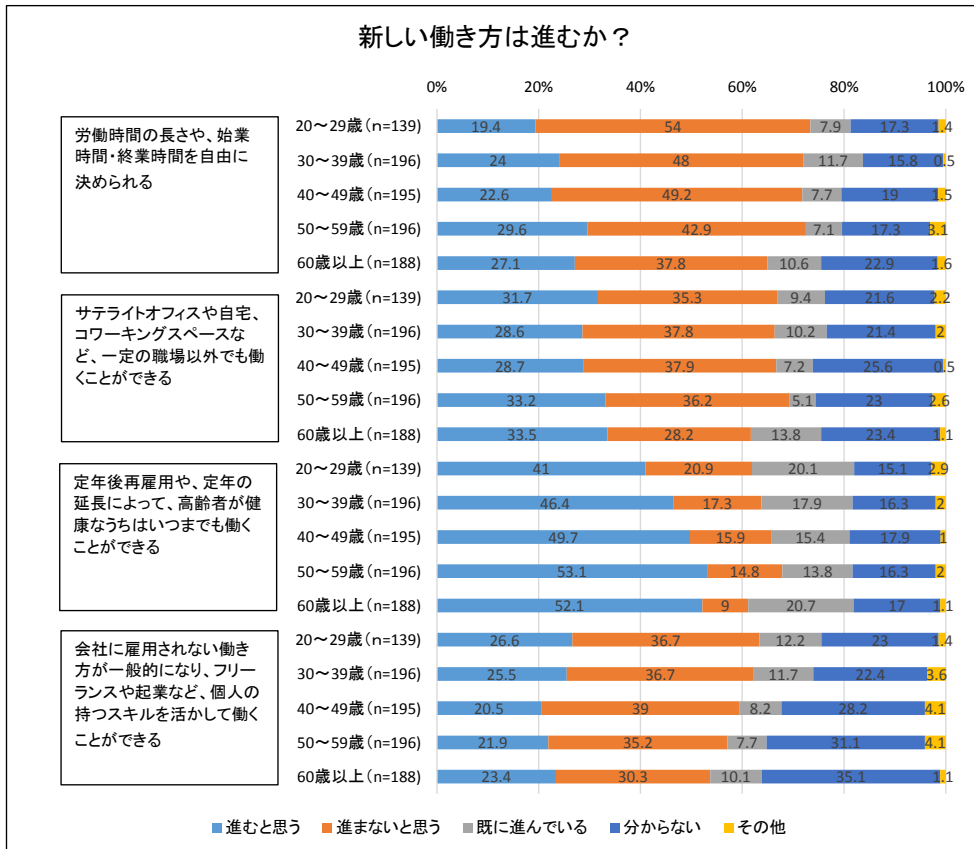
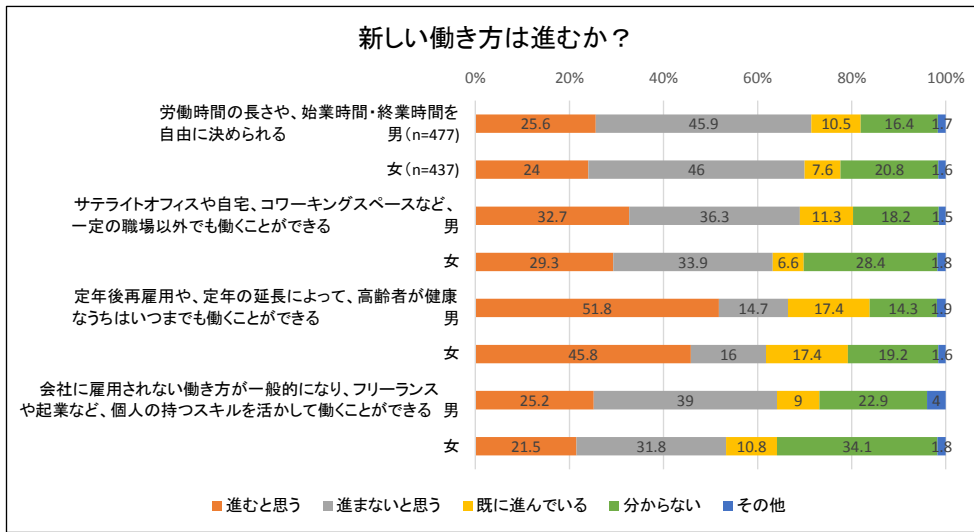
Q2-4 会社に雇用されない働き方が一般的になり、フリーランスや起業など、個人の持つスキルを活かして働くことができる（雇用されない働き方）

最も割合が高いのは「進まないと思う」で35.6%、次いで「分からない」が28.2%、「進むと思う」が23.4%であった。

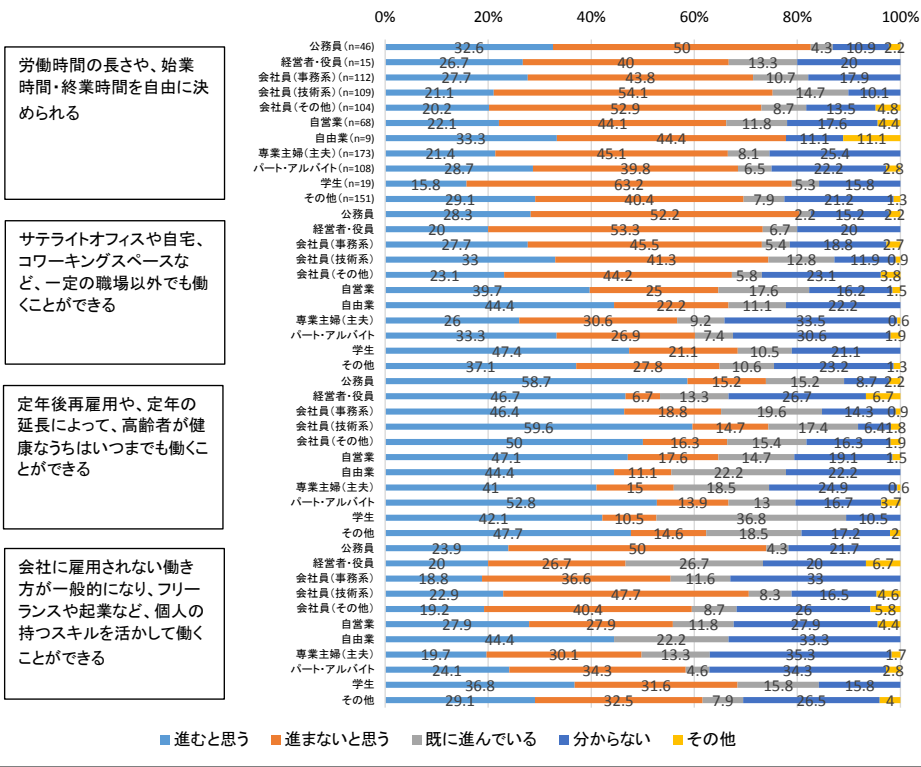


2) クロス集計（男女別・年齢別・職業別・地域別）

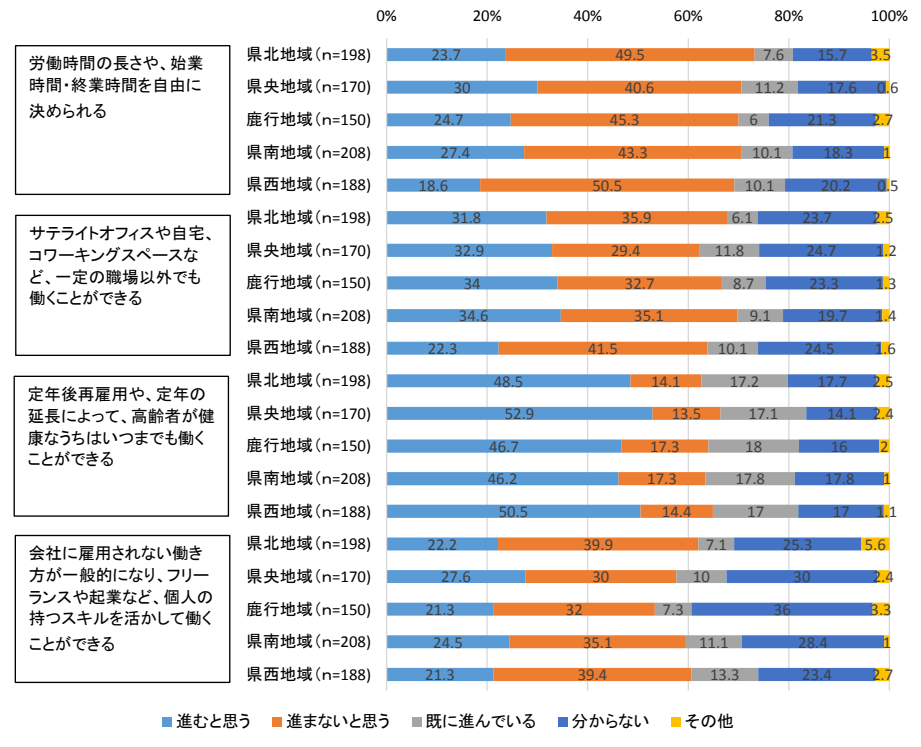
- ①男女別では、男女とも『高齢者活躍』で「進むと思う」が「進まないと思う」を大きく上回り、それ以外の項目は「進まないと思う」が「進むと思う」を上回った。
- ②年齢別では、60代以上が『テレワーク』で「進むと思う」が「進まないと思う」を上回った。それ以外は、すべての年代とも『高齢者活躍』で「進むと思う」が「進まないと思う」を上回り、それ以外の項目は「進まないと思う」が「進むと思う」を上回った。
- ③職業別では、自営業、自由業、パート・アルバイト、学生、その他が『テレワーク』で、自由業、学生、その他が『雇用によらない働き方』で「進むと思う」が「進まないと思う」を上回った。それ以外は、すべての職業とも『高齢者活躍』で「進むと思う」が「進まないと思う」を上回り、それ以外の項目は「進まないと思う」が「進むと思う」を上回った。
- ④地域別では、県央地域と鹿行地域が『テレワーク』で「進むと思う」が「進まないと思う」を上回った。それ以外は、すべての地域とも『高齢者活躍』で「進むと思う」が「進まないと思う」を上回り、それ以外の項目は「進まないと思う」が「進むと思う」を上回った。



新しい働き方は進むか？



新しい働き方は進むか？

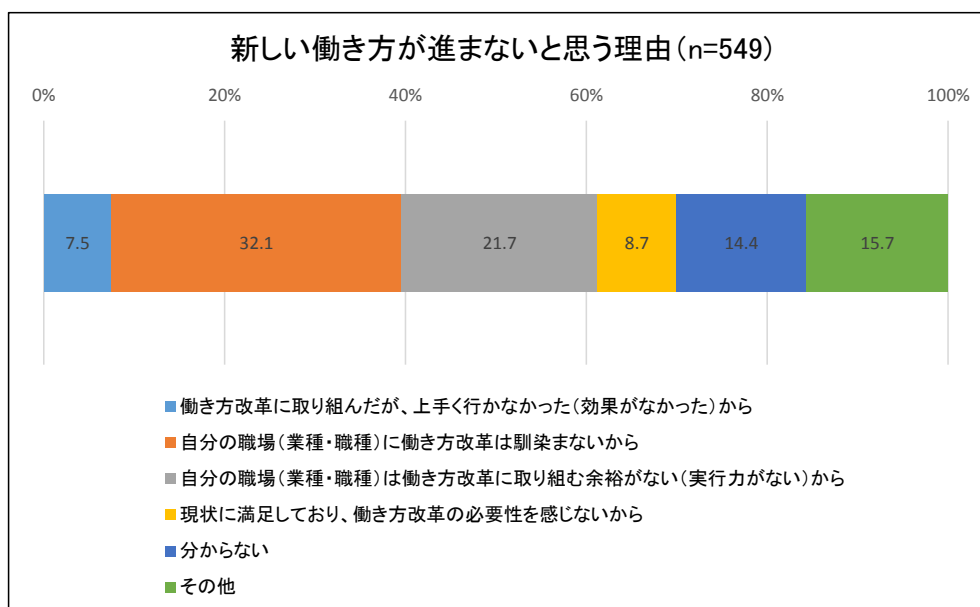


(3) 新たな働き方が進まないと思う理由

Q3. Q1 でいずれかの選択肢について働き方改革が「2. 進まないと思う」と答えた方にお聞きします。なぜ進まないと思うか、理由として最も近いものを選んでください。

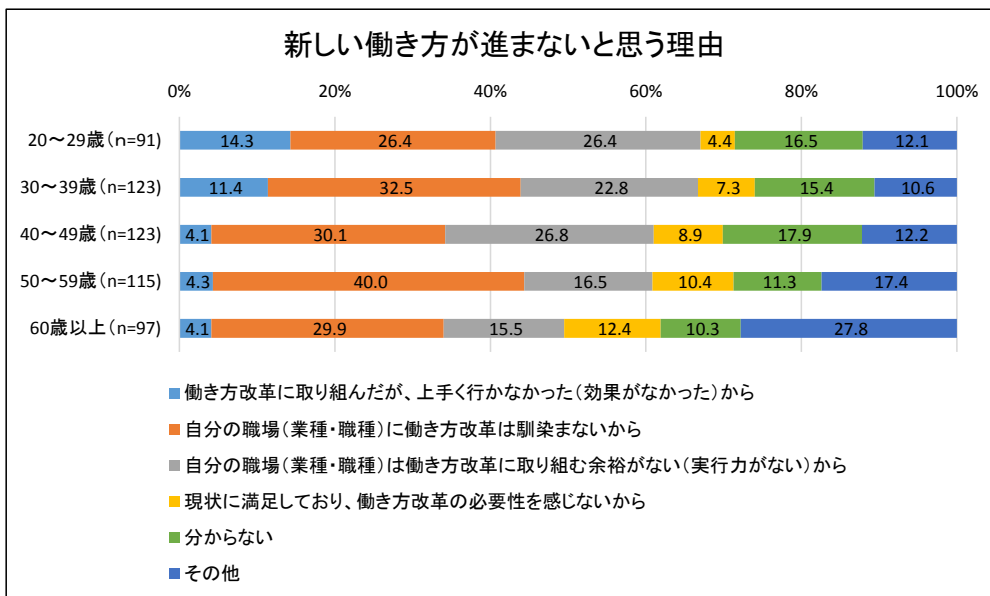
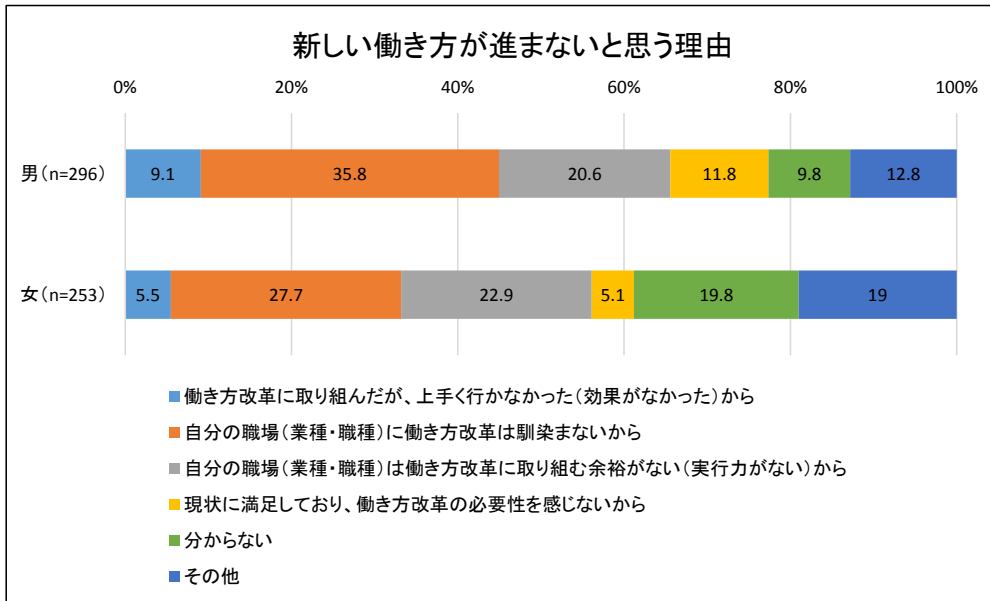
1) 単純集計

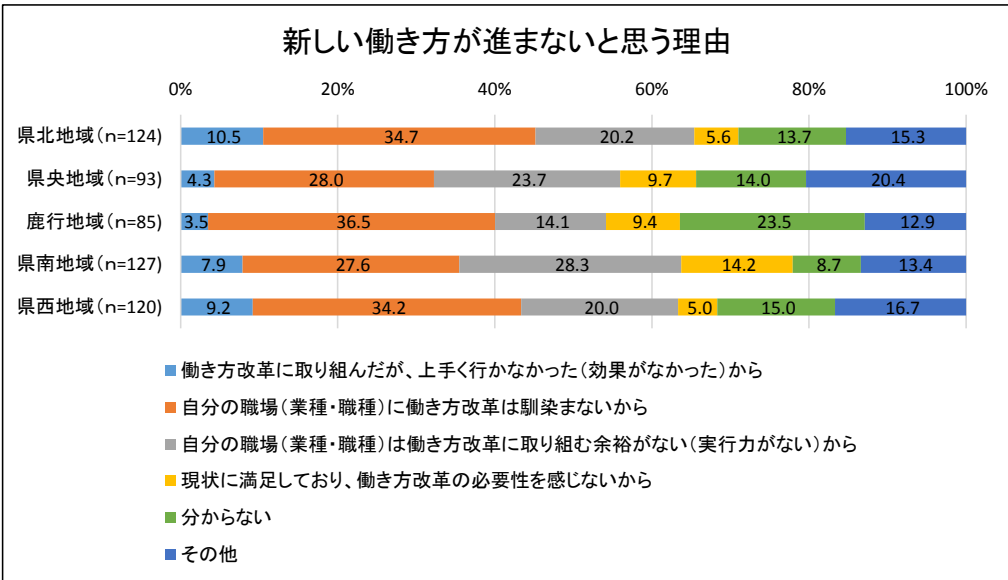
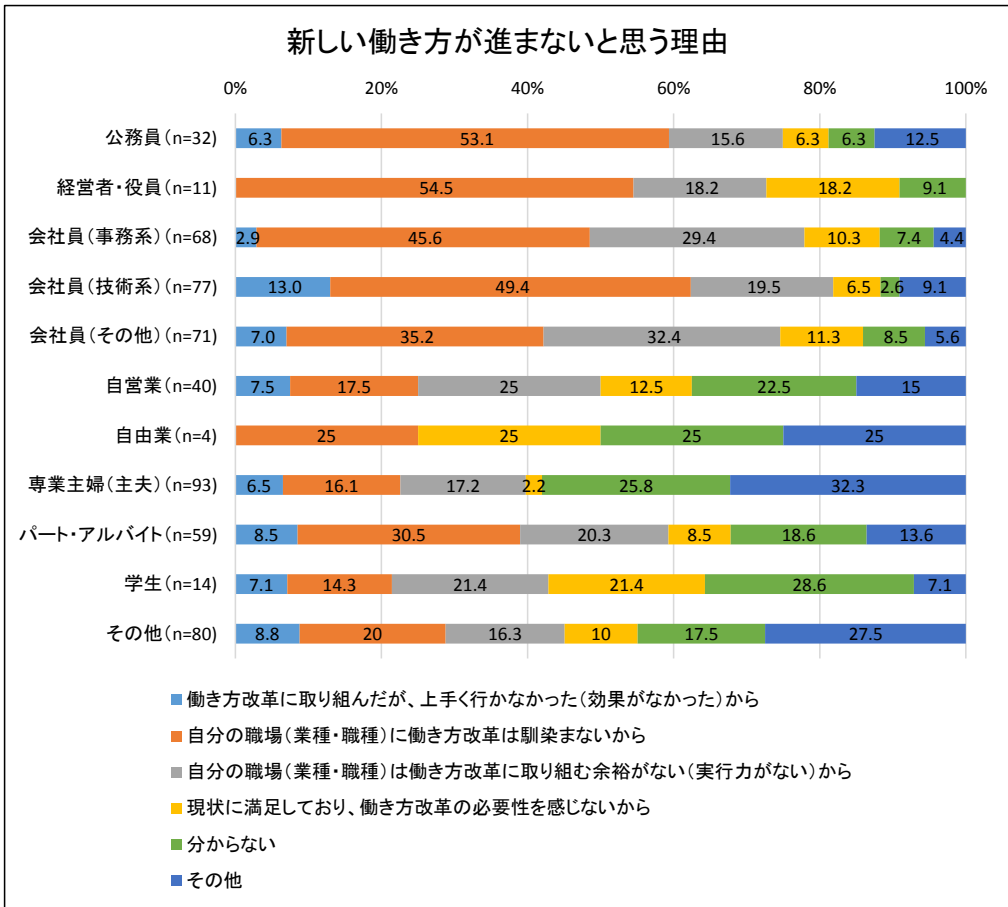
最も割合が高かったのは「自分の職場（業種・職種）に働き方改革は馴染まないから」で 32.1%、次いで「自分の職場（業種・職種）は働き方改革に取り組む余裕がない（実行力がない）から」が 21.7%、「その他」が 15.7%、「分からない」が 14.4%であった。



2) クロス集計（男女別・年齢別・職業別・地域別）

- ①男女別では、男女とも「自分の職場（業種・職種）に働き方改革は馴染まないから」が最も高く、次いで「自分の職場（業種・職種）は働き方改革に取り組む余裕がない（実行力がない）から」が高かった。
- ②年齢別では、20代は「馴染まないから」「余裕がない（実行力がない）から」が同じ割合で最も高かった。30代、40代は「馴染まないから」が最も高く、次いで「取り組む余裕がない（実行力がない）から」が高かった。50代、60代以上は「馴染まないから」が最も高く、次いで「その他」が高かった。
- ③職業別（回答数 50 名以上、「その他」を除く）では、専業主婦（主夫）が「その他」が最も高く、次いで「分からない」が高かった。それ以外は、すべての職業とも「馴染まないから」が最も高く、次いで「取り組む余裕がない（実行力がない）から」が高かった。
- ④地域別では、鹿行地域は「馴染まないから」が最も高く、次いで「その他」が高かった。県南地域は「取り組む余裕がない（実行力がない）から」が最も高く、次いで「馴染まないから」が高かった。それ以外は、すべての地域とも「馴染まないから」が最も高く、次いで「取り組む余裕がない（実行力がない）から」が高かった。



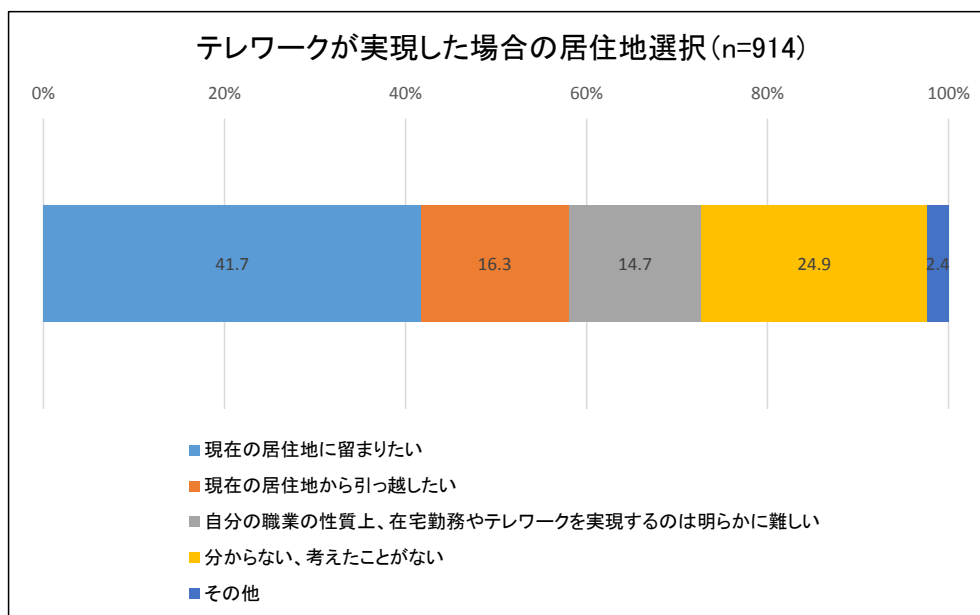


(4) テレワークが実現した場合の居住地選択

Q4. 在宅勤務制度やテレワークが実現し、職場に通勤しなくても働けるようになったとしたら、あなたは現在の住居から引っ越したいと思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを選んでください。

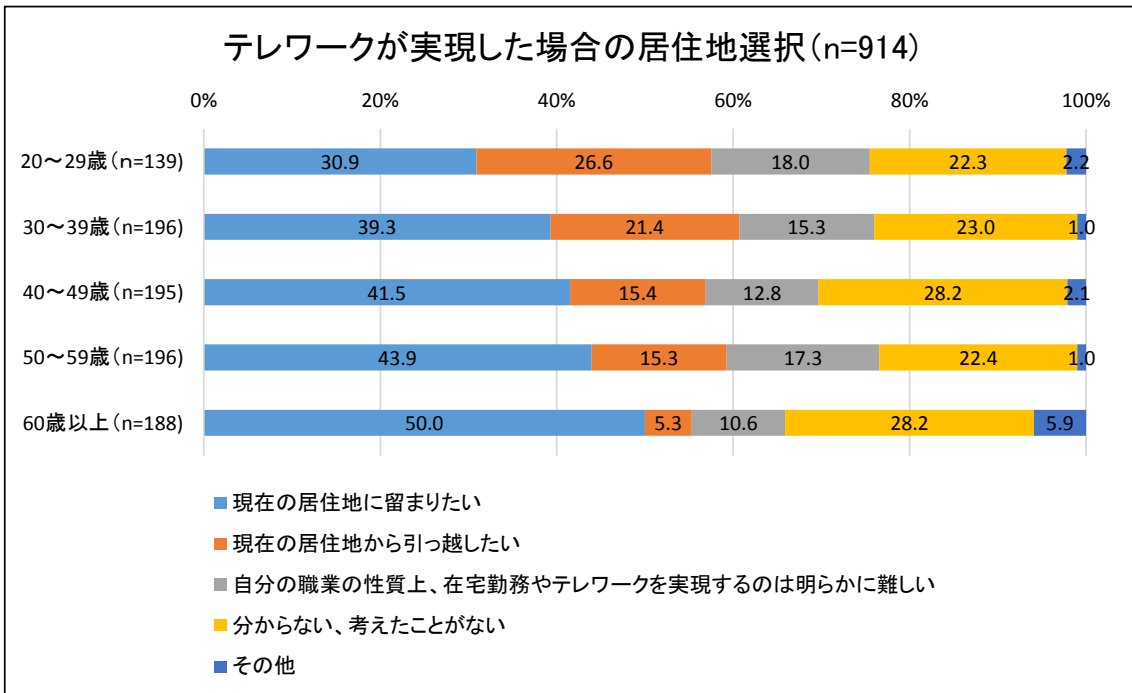
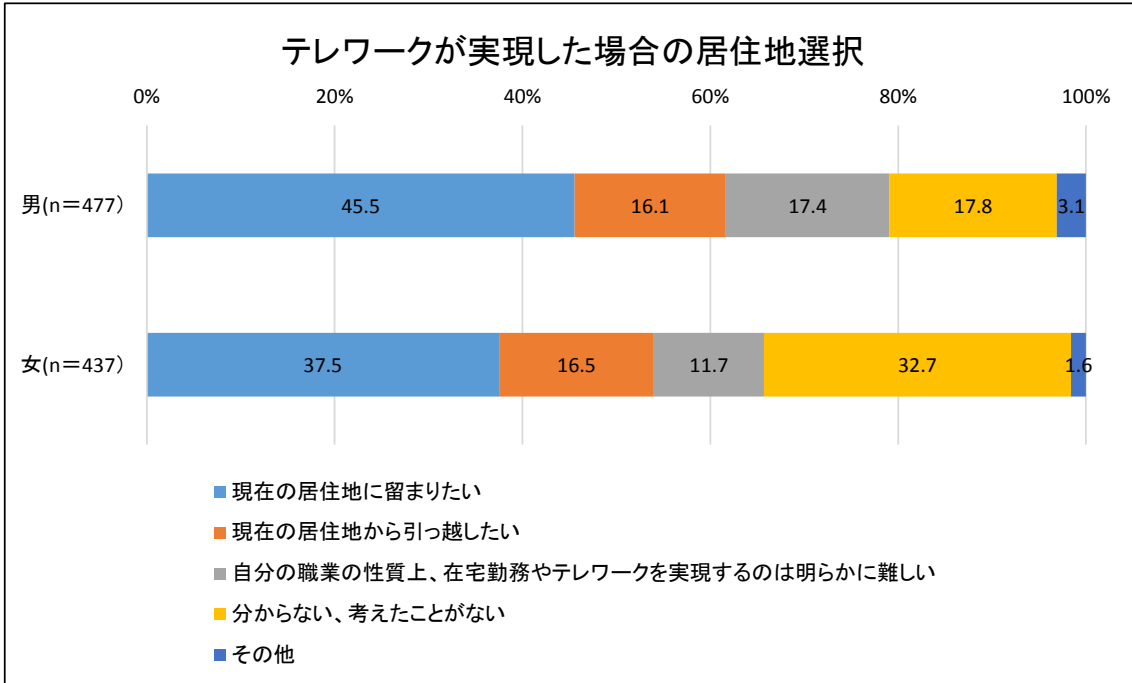
1) 単純集計

最も割合が高かったのは「現在の居住地に留まりたい」で41.7%、次いで「分からない、考えたことがない」が24.9%、「現在の居住地から引っ越したい」が16.3%であった。

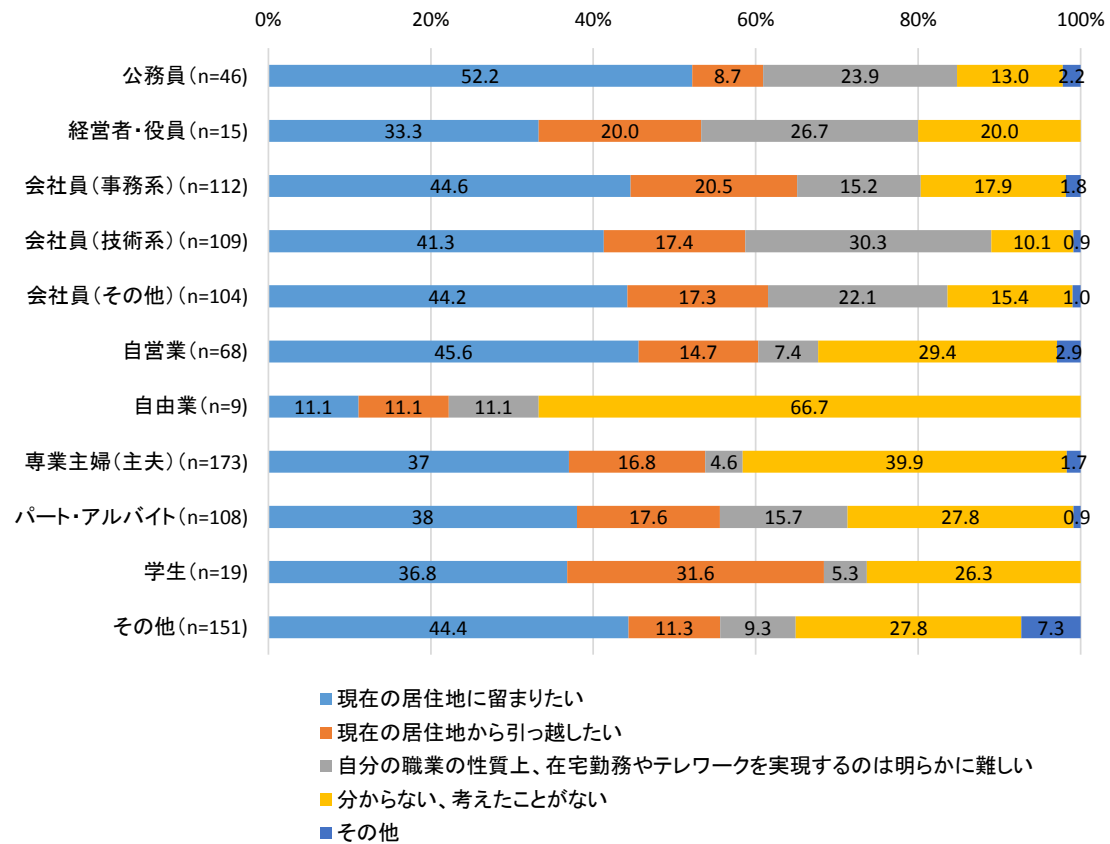


2) クロス集計（男女別・年齢別・職業別・地域別）

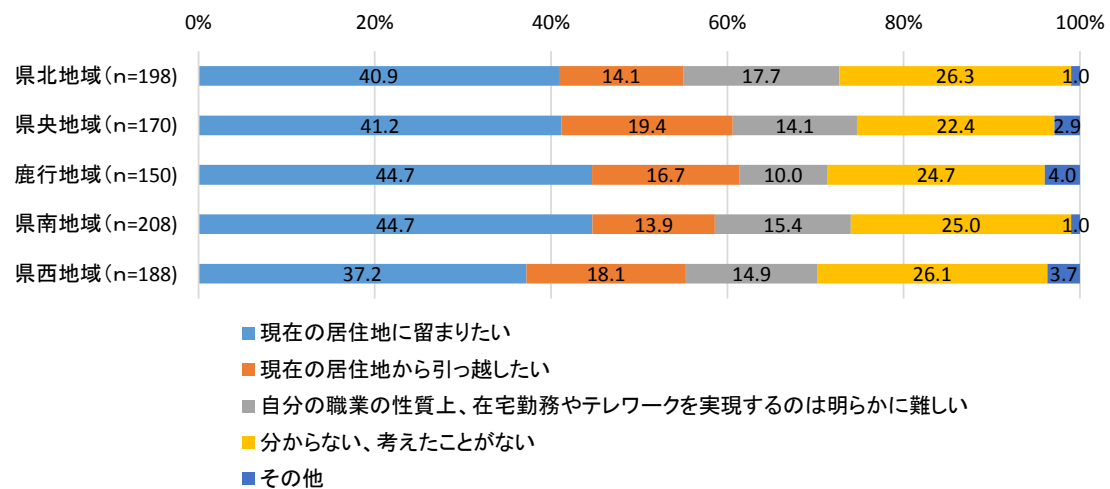
- ①男女別では、男女とも「現在の居住地に留まりたい」が最も高く、次いで「分からない、考えたことがない」が高かった。
- ②年齢別では、20代は「現在の居住地に留まりたい」が最も高く、次いで「現在の居住地から引っ越したい」が高かった。それ以外は、すべての年代で「現在の居住地に留まりたい」が最も高く、次いで「分からない、考えたことがない」が高かった。また、年代が高くなるにつれ、「現在の居住地に留まりたい」の割合は高くなっている。
- ③職業別（回答数50名以上、「その他」を除く）では、会社員（事務系）は「現在の居住地に留まりたい」に次いで「現在の居住地から引っ越したい」が高かった。会社員（技術系・その他）は「現在の居住地に留まりたい」に次いで「自分の職業の性質上…難しい」が高かった。専業主婦（主夫）は「分からない、考えたことがない」が最も高く、次いで「現在の居住地に留まりたい」が高かった。自営業、パート・アルバイトは「現在の居住地に留まりたい」が最も高く、次いで「分からない、考えたことがない」が高かった。
- ④地域別では、すべての地域とも「現在の居住地に留まりたい」が最も高く、次いで「分からない、考えたことがない」が高かった。



テレワークが実現した場合の居住地選択



テレワークが実現した場合の居住地選択

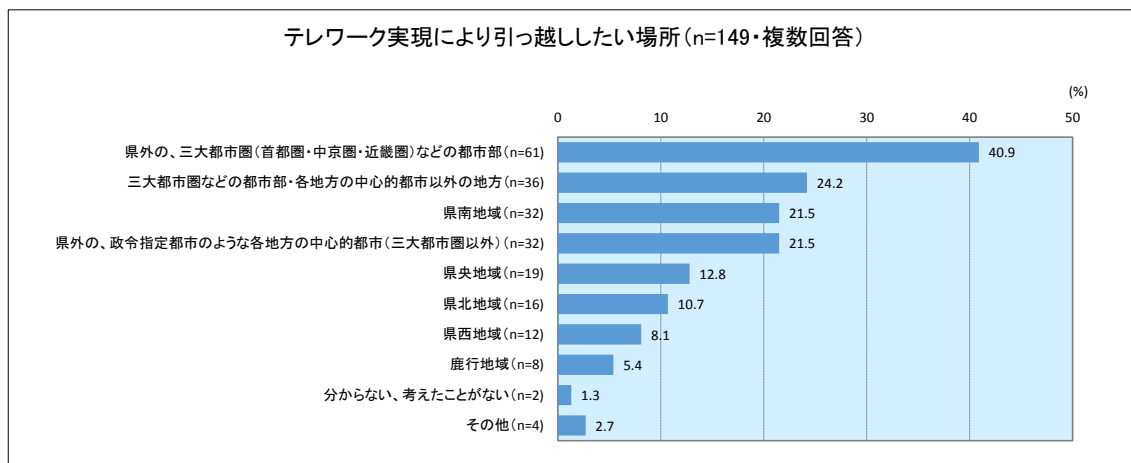


(5) テレワークの実現により引っ越したい場所

Q5. Q4 で「2. 現在の住居地から引っ越したい」と回答した方にお聞きします。引っ越すとしたら、あなたはどこに引っ越したいと思いますか。あなたの考えに近いものをいくつでも選んでください。

1) 単純集計

最も割合が高かったのは「県外の、三大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）などの都市部」で 40.9%、次いで「三大都市圏などの都市部・各地方の中心的都市以外の地方」が 24.2%、「県南地域」が 21.5% であった。



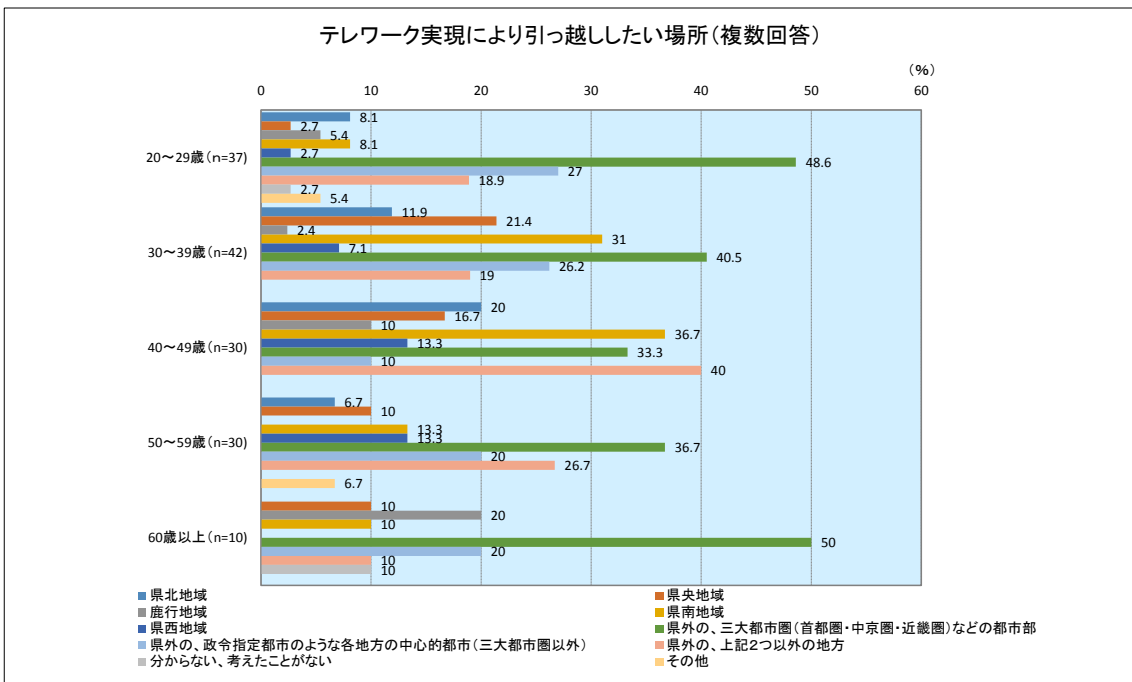
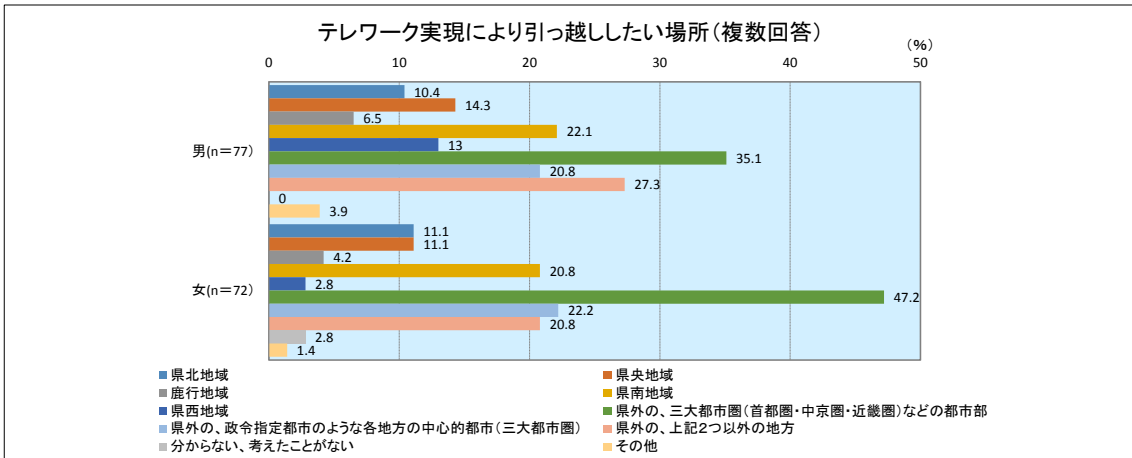
2) クロス集計（男女別・年齢別・職業別・地域別）

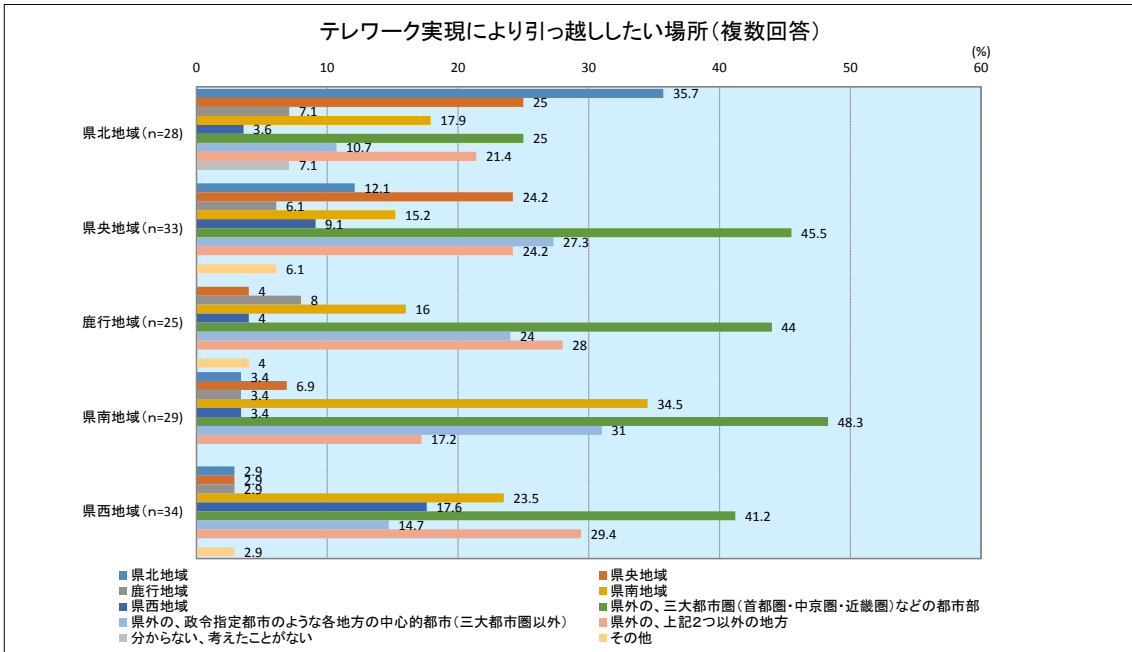
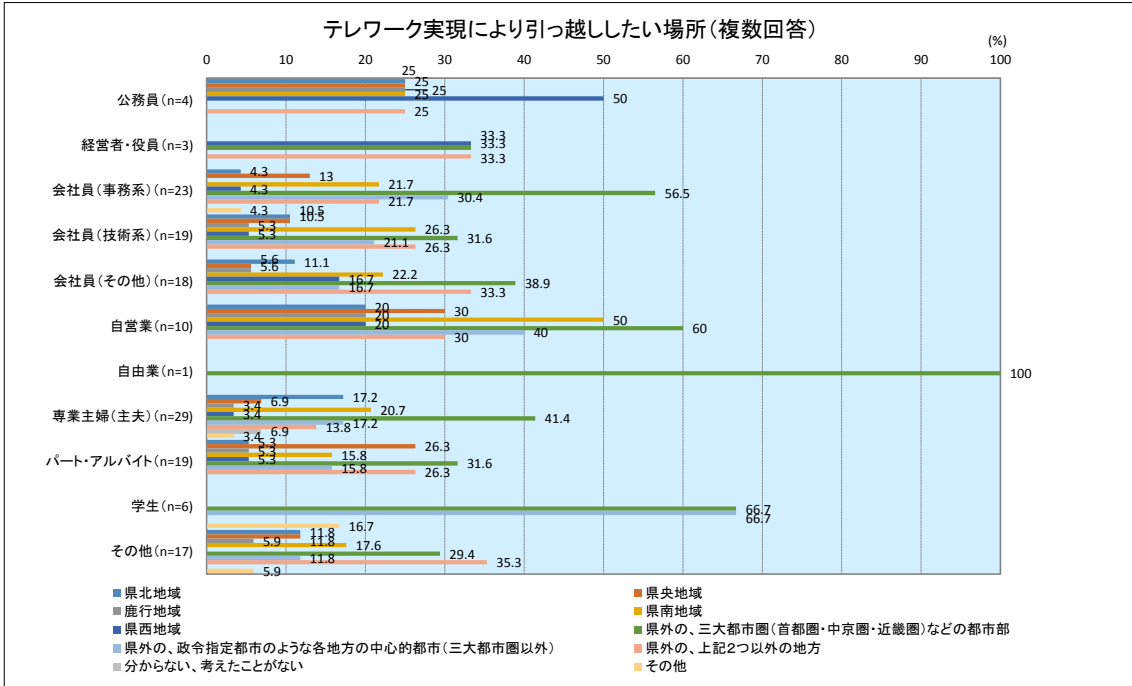
①男女別では、ともに「県外の、三大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）などの都市部」が最も高く、次いで男性は「三大都市圏などの都市部・各地方の中心的都市以外の地方」が、女性は「県外の、政令指定都市のような各地方の中心的都市（三大都市圏以外）」が高かった。

②年齢別では、20代、30代、50代、60代以上は「県外の、三大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）などの都市部」が、40代は「三大都市圏などの都市部・各地方の中心的都市以外の地方」が最も高かった。次いで20代は「県外の、三大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）などの都市部」が、30代、40代は「県南地域」が、50代は「三大都市圏などの都市部・各地方の中心的都市以外の地方」が、60代以上は「県外の、政令指定都市のような各地方の中心的都市（三大都市圏以外）」「鹿行地域」が高かった。

③職業別（回答20人以上）では、会社員（事務系）、専業主婦（主夫）はともに「県外の、三大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）などの都市部」が最も高く、次いで会社員（事務系）は「政令指定都市のような各地方の中心的都市（三大都市圏以外）」が、専業主婦（主夫）は「県南地域」が高かった。

④地域別では、県北地域は「県北地域」（自地域）が、それ以外の地域は「県外の、三大都市圏（首都圏・中京圏・近畿圏）などの都市部」が最も高かった。次いで、県北地域は「県央地域」、県央地域は「県外の、政令指定都市のような各地方の中心的都市（三大都市圏以外）」、鹿行地域と県西地域は「三大都市圏などの都市部・各地方の中心的都市以外の地方」、県南地域は「県南地域」（自地域）が高かった。



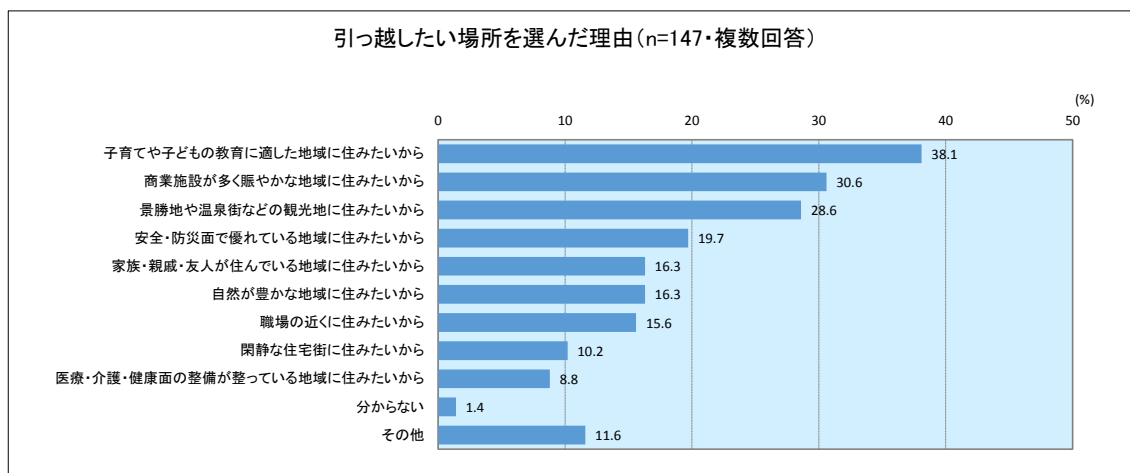


(6)引っ越したい場所を選んだ理由

Q6. Q5 で選んだ選択肢について、あなたはなぜその選択肢を選びましたか。あなたの気持ちに近いものを3つまで選んでください。

1) 単純集計

最も割合が高かったのは「子育てや子どもの教育に適した地域に住みたいから」で38.1%、次いで「商業施設が多く賑やかな地域に住みたいから」が30.6%、「景勝地や温泉街などの観光地に住みたいから」が28.6%であった。



2) クロス集計 (男女別・年齢別・職業別・地域別)

- ①男女別では、男性は「子育てや子どもの教育に適した地域に住みたいから」が最も高く、次いで「安全・防災面で優れている地域に住みたいから」が高かった。女性は「商業施設が多く賑やかな地域に住みたいから」が最も高く、次いで「子育てや子どもの教育に適した地域に住みたいから」が高かった。
- ②年齢別では、20代、30代、60代以上は「子育てや子どもの教育に適した地域に住みたいから」が、40代は「商業施設が多く賑やかな地域に住みたいから」が、50代は「景勝地や温泉街などの観光地に住みたいから」が最も高かった。
- ③職業別 (回答数20名以上) では、会社員 (事務系) は「商業施設が多く賑やかな地域に住みたいから」が最も高く、次いで「子育てや子どもの教育に適した地域に住みたいから」が高かった。専業主婦 (主夫) は「景勝地や温泉街などの観光地に住みたいから」が最も高く、次いで「商業施設が多く賑やかな地域に住みたいから」が高かった。
- ④地域別では、県北地域、鹿行地域、県南地域は「子育てや子どもの教育に適した地域に住みたいから」が、県央地域は「商業施設が多く賑やかな地域に住みたいから」が、県西地域は「景勝地や温泉街などの観光地に住みたいから」が最も高かった。

